

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	337110041700		
法人名	株式会社 雅		
事業所名	グループホーム青い鳥2		
所在地	岡山県備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成30年10月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成30年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭菜園や花栽培を通じて四季の移ろいを感じて頂き、各入居者が孤立しないよう何か取り組んで頂くことにより、役割をもって頂けるよう努めている。またホーム内のみならずドライブ等で外にも出て頂くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岡山県の東備地区で、16年目を迎えるグループホームです。過疎化の進む中、開設者の高齢福祉に対する熱い思いが変わる事なく運営されており、隅々まで掃除の行き届いた共同空間と居室、入居者の清潔な身なりと、和やかな雰囲気の中で手作りの食事に笑顔がこぼれていました。何気ない日常を大切にされた支援が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族の延長」及び「その人らしく」を理念とし、入居者様のニーズを踏まえ、理念の浸透と実践を心がけている。	新旧問わずスタッフが、理念を下にケアできるよう管理者が中心となり、努力している様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域からの情報は少ないものの、町内会、民生委員の方々との交流は大切にしている。	町内会の清掃活動への参加。又、ボランティア、民生委員の方々による事業所の草取り、窓ガラス拭き、秋祭りには神輿が来所するなど地域との繋がりを大切に交流が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修への参加、他事業所への訪問等で偏りのないケアの考え方を習得及び発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している。包括センター、介護福祉課、ご家族の参加していただき事業所の取り組みを説明し理解をいただいている。	2か月1回実施し、毎回行政の方の参加もあり、ボランティアや入居者の紹介など、情報の共有に運営推進会議の場を活用し、意見交換などしながらサービスの向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村等の行政との連携	介護保険法上の疑問点など常に、相談ができる関係づくりに努めています。又、運営推進会議などを通して現場での話し合いができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	従来の拘束委員会を見直し、新たな委員会を発足し各ユニット間での情報共有、カンファレンスを開催している。	拘束に関する考え方も色々ある中、基準を定め拘束をしないケアに努めています。玄関の施錠もされていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不定期ではあるが、会議にて虐待に関する研修、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、希望者は後見制度の研修にも参加をしている。今現在、入居者様の一人が後見人選定中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みをいただいた後、事前面接とゆう形で、ご説明に伺っており、契約時も再度ご説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、ご家族様から意見をいただく努力はしている。運営推進会議の席上でも意見をいただくようにしている。	ご意見箱には意見は、はいらないようです。行事や運営推進会議など直接会う機会を活用し、意見や要望等を聞き反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフかの意見には可能な限り耳をかすようにしている。意見を参考に問題解決に努めている。	代表者と職員は、年2回直接面談をし意見を聞く機会を設けています。現場では、月1回のミーティングを開催し、入居者の状況、季節ごとの行事計画、又、施設の設備改善など職員から出た意見が運営に反映されるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が全スタッフの事を完全に把握しているとは思えないが、現場から伝えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ご案内を頂いた、研修会や勉強会の参加をよびかけている。当事業所内でも会議をして勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との横のつながりを大切に考えており、必要に応じて見学等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	きちんとした信頼関係が築けるまで寄り添い、傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当所からの情報発信元を一本化し、ご家族との感情に行き違いがないようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	立ち入ったこともお聞きし、ご本人、ご家族様にとってより良いケアができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を見極め、役割をもっていただくことにより、孤立しない信頼関係が築けるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係も様々である為、その場に見合った橋渡し役をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人からの拒否がない限り、外部の方とも接触を持つような雰囲気作りをしている。	外出の機会を活用し生まれ故郷に出かけたり、近隣との交流で馴染みになった近所の方が野菜やおやつを持って来てくれるなど交流が続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の性格、個性を考慮し、馴染みの関係になれるように席順を決めたり、一緒に作業をしていただくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の経過を知る為に、ご家族に連絡したり、面会に行かせて頂いており、良い関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の性格、生活歴を念頭に置きつつ、日々のケアに当たっている。ご家族からコメントをいただくようにしている。	日常の変化に目を向け、入居者様本位のケアに努めています。	地域密着型の事業所として、その人らしい生活を少人数でバランスよく、共に暮らす環境づくりに努められる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族さまのみならず紹介者からもコメントをいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、様子観察により体調変化、心の変化を見落とさないに心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	些細な変化も見落とさないようにし、ご家族や他のスタッフにも情報を提供している	日常生活のケアの中で感じたこと、見たことを聞き取りながら記録し、職員会議等で話し合い、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に加え、申し送りノートも作成し活用している。口頭でも申し送りをしております。計画作成担当者にも利用者の情報を提供し計画作成及び見直し活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族を含め、第三者的立場の方の声を大切に柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内だけをケアの場所と考えず、近所の名勝であったり、海が近かったりする立地条件を生かしたケアに取り組んでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診によりサポートして頂いている。入院時は難色を示される機関もあるので、随時連絡を取り、協力をさせて頂けるよう働きかけている。	協力医による往診、入居者の体調変化など気軽に相談が出来る関係づくりに努めています(入院時の対応には苦勞されているようでした)。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職が不在な状態であるが、協力医との連携、情報共有に力を入れ、協力医からの適切な指示のもと対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人と、家族の意見を第一に考え、ソーシャルワーカーを仲介にし医師とも相談をしている。認知症である為長期入院は難しい場合が多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として限界があるが、ご家族とも相談させていただき事業所としてできることをそれぞれの場面で説明をしご理解いただいています。	過疎化の進む中で医療面で十分な環境が整っていない現状があり本人、家族とも相談しながら、重度化・終末期に向けた対応に努めています。	引き続き終末期について取り組んでいかれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や救命救急士による指導を受けている。職員全員が受講できるように、努力していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定し避難訓練を実施しています。年、二回は消防署の方にも協力をいただき訓練をしています。	年2回の訓練の外に、7月の豪雨災害時に避難を経験されました。その時の反省を踏まえ、備蓄品・移動手段、職員対応など改善課題をあげられていました。	改善課題を実践につなげるよう努め、職員レベルではできない部分は消防・地域、代表、管理者も一緒になり対応されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さまの人格の尊厳を大切にしています。特に言葉遣いには気を付け対応しております。	接遇の研修にも参加し、尊厳について勉強する機会を設け、日常のケアに活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決定するのではなく、いくつかの選択肢を用意し自己決定していただくように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「してみますか？」等、聞いてご本人の関心、興味を引き出すようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気温等を体感して頂きその場に相応した服装をアドバイスをさせていただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し、食事をたのしんで頂く努力をしています。また外食にも行っています。	地域の野菜、魚など手作りの食事は入居者に馴染みのあるものをおいしく味付けされており、食欲のわく献立でした。皆さん完食されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の健康状態に応じた食事量や水分摂取量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけはもちろんのこと、自力でのケアが難しい方には仕上げのお手伝いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や声かけ(あくまで睡眠優先で)を行い極力、便器内への排泄を心掛けている。	本人のレベルに合わせた排泄介助で、段階的に自立に向けた支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質多い食材取り入れたり、水分量の確保に努めています。便秘するようであれば主治医に相談し改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴がお好きな方も、嫌いな方もいる。執拗な声かけは行わず時間をずらしたり、スタッフが交代して声かけをするなど工夫をし、個々にそった支援をしている。	1日の流れの中で基本入浴は午後に決めているようですが、必要に応じて変更するなど柔軟な対応で個々にそった支援を大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は決めていません。各自のペースに合わせています。談笑される方、TV視聴される方など安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減や新処方時は、スタッフ間で申し送り薬情箋の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを取ることで、入居者様のニーズや好みを見つけるようにしている。コミュニケーションの手段にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望にかならずしも応えられていないが、可能な限り対応している。	近所のお寺への散歩など気軽に外に出かけていました。認知症カフェに参加したり、墓参りをしたりそれぞれ入居者に合わせた外出支援がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は当所で管理させていただいているが、必要物を購入する際には、おおまかな金額等を家族認事前に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月請求書と共に近況報告の手紙を同封しており、ご家族から問い合わせの連絡もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時の写真をポスターのように貼り、和みの役割を果たしている。入居者様の記憶を呼び起こしつつ、笑いもある。	施設全体に掃除が行き届き、高齢者施設にありがちなにおいがなく清潔な共用空間で湿度、気温に注意しながら、太陽の光を入れ自然な空気を取り入れた居場所づくりを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者の居室以外は自由に使っていただき、各々の自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は極端にならない程度で自由に使っていただいている。	個人の居室も共用空間と同様で、掃除が行き届き清潔感あふれ、個々に合った装いで居心地よく過ごせるよう配慮が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節行事(クリスマス等)時には飾りを手伝って頂いており、何等かの形で参加していただけるように配慮している		